

# 日本気象学会

## 昭和62年度春季大会

会期：昭和62年5月26日（火）、27日（水）、28日（木）

会場：筑波大学学生会館（茨城県新治郡桜村天王台1-1-1）

### 目次

会場案内	277, 289
大会行事予定表	278
総会次第	278
研究発表内容一覧表	279
シンポジウム内容	280
研究発表題目	281~289

### 会場案内図



なお、4月1日より東京—筑波間直通バスが運行します。289頁参照のこと。

## 大会行事予定

1. 会場：筑波大学学生会館 (TEL. 0298-53-2035)
  - 第1会場 (3階, ホール)
  - 第2会場 (3階, 国際会議室)
  - 第3会場 (3階, 特別会議室)
  - ポスター・セッション (2階, ギャラリー)
2. 会期：5月26日 (火), 27日 (水), 28日 (木)

行事			
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	5月26日 (火)	9:00~12:30 13:30~14:40
大会 (ポスター・セッション概要紹介)	(第1, 2, 3会場)		14:40~15:00
大会 (ポスター・セッション)	(2階, ギャラリー)		15:00~15:30
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)		15:45~17:45
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	5月27日 (水)	9:00~12:00
総会	(第1会場)		13:00~14:00
学会賞・藤原賞受賞記念講演	(第1会場)		14:00~15:20
シンポジウム	(第1会場)		15:30~17:30
懇親会	(1階, 食堂)		18:00~
大会 (研究発表)	(第1, 2, 3会場)	5月28日 (木)	9:00~12:30 13:30~17:30

## 総会次第

1. 開会の辞
  2. 議長選出
  3. 理事長挨拶
  4. 学会賞授与
  5. 藤原賞授与
  6. 昭和61年度事業経過報告
  7. 昭和61年度会計決算報告
  8. 昭和61年度会計監査報告
  9. 昭和62年度事業計画案・予算案の審議
  10. その他
  11. 閉会の辞
- なお、総会に引き続き学会賞受賞記念講演および藤原賞受賞記念講演を行う。

## 昭和62年度春季大会

( ) : 講演番号, — : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
5月26日 (火)	9:00~ 12:30	熱帯気象・台風 (101~118) —近藤洋輝—	エクマン境界層 (201~207) 局地循環 (208~217) —沢井哲滋—	気候 (I) (301~317) —河村 武—
	13:30~ 14:40	気象力学 (119~124) —松田佳久—	局地循環・大気汚染 (I) (218~223) —蒲生 稔—	気候 (II) (318~323) —小林 守—
	14:40~ 15:00	ポスター・セッション概要紹介 (P101~P109) —松田佳久—	ポスター・セッション概要紹介 (P201~P209) —蒲生 稔—	ポスター・セッション概要紹介 (P301~P308) —小林 守—
	15:00~ 15:30	ポスター・セッション	2階ギャラリー	
	15:45~ 17:45	中層大気 (125~132) —高橋正明—	局地循環・大気汚染 (II) (224~233) —渡辺 明—	気象測器・応用気象 (324~333) —青柳二郎—
5月27日 (水)	9:00~ 12:00	中小規模現象 (133~144) —榊原 均—	雲物理・積雲対流 (I) (234~245) —権田武彦—	放射 (334~344) —内山明博—
	13:00~ 14:00 14:00~ 15:20 15:30~ 17:30	総会 記念講演 シンポジウム	} 第1会場	
5月28日 (木)	9:00~ 12:30	総観規模現象・数値計算法 (145~159) —吉住禎夫—	雲物理・積雲対流 (II) (246~260) —椎野純—	大気化学・大気電気 (345~359) —忠鉢 繁—
	13:30~ 17:30	エアロゾル (160~180) —林田佐智子—	接地境界層 (261~279) —加藤真規子—	大気大循環 (360~375) —谷貝 勇—

注) 大会参加費 会員1,000円, 学生会員500円, 一般1,500円

## 講演発表者へのお知らせ

1. 第1, 第2, 第3会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演時間は質疑を含めて12分程度です。スライド標準枚数は6~8枚です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下を揃えて下さい。
4. ポスター・セッションの方法については昨年の「天気」12月号 (P.652) を参照して下さい。

## シンポジウム「モンスーンと梅雨」

1. 日 時 大会第2日(5月27日) 15:30~17:30
2. 会 場 第1会場(大学会館ホール, 3階)
3. 座 長 河村 武(筑波大学)
4. 話題提供者
  - 加藤内蔵進(名古屋大学) : 東アジア循環場の季節進行と梅雨前線
  - 安成 哲三(筑波大学) : モンスーンの季節内変動と東アジア循環場
  - 田中 実(気象研究所) : 中国黄河流域の降水量の経年変動とアジア・モンスーンとの関係
  - 中村 一(気象庁) : JMA モデルによる梅雨とモンスーンの子報実験

## 研究会のお知らせ

大会前日と第1日に下記の研究会が開催されます。興味のある方は御自由に参加下さい。

## 1. 月例会「南極圏の気象」——第7回会合——

日 時 5月25日(月) 17:00~19:30

場 所 筑波大学自然系学系棟B-215, 2階

テーマ 「WCRP と南極観測」

- 話題提供 (1) 武田喬男(名大・水圏研) : 南極の雲と降水の研究計画  
 (2) 瀬古勝基(名大・水圏研) : 南極における水循環  
 (3) 遠藤辰雄(北大・低温研) : 南極における降雪観測と無人観測  
 (4) 住 明正(東大・理) : 年々変動に及ぼす海氷の役割について  
 ——大循環モデルからの雪氷への期待——

(連絡先: 大畑哲夫, 名古屋大学水圏科学研究所 TEL. 052 (781) 5111 内線5726)

## 2. 研究会「モデル気象学」

日 時 5月26日(火) 18:00~20:00

場 所 筑波大学第1学群棟1D204号室

テーマ 「熱帯大気と熱源」

- 話題提供 (1) 隈 健一(気象庁) : 赤道付近の熱源のアジア・モンスーンに及ぼす影響について  
 (2) 時岡達志(気象研究所) : 低緯度の熱源と大循環

(連絡先: 増田耕一, 東京大学理学部 TEL. 03 (812) 2111 内線4296)

## 研究発表題目

大会第1日(5月26日) 9時00分~12時30分

(\*印は発表者)

## 第1会場 熱帯気象・台風

座長 近藤洋輝

101. 松林繁樹(気象庁・長期予報):太平洋熱帯域における海面水温の変動
102. \*宮崎保彦・田中康夫(気象庁・長期予報):東部赤道太平洋の海面水温の低い年(Cold Episode Year)の日本の月平均気温の特徴
103. 川村隆一(筑波大・地球科学):西部太平洋における SST と非断熱加熱の関係
104. 新田 勅(気研):太平洋-日本 振動の全球構造
105. 田中 実(気研):ユーラシア大陸の大気循環と夏のインドモンスーンの少雨年との関係
106. 中澤哲夫(気研・台風):季節内変動の階層構造
107. \*林 久美・河原幹雄(気象庁・長期予報):OLRを用いた夏の30~60日周期季節内変動の年による違い
108. 新田 勅(気研)・元木敏博(気象衛星センター):エルニーニョ発生期における対流活動の急激な発達と、強い下層西風の出現
109. 森 一正(気研・予報):「エルニーニョ緊急調査」(JENEX-87)の調査船「なつしま」における気象観測について
110. Sanga-Ngoie Kazadi(京大):An OI scheme for climatic studies in the tropics
111. 伊藤久徳(和歌山大・教育):混合 Rossby 重力波の励起機構
112. 伊藤久徳(和歌山大・教育):Wave-cumulus interaction における波数選択の機構
113. 隈 健一(気象庁・数値予報):赤道付近の熱源がアジアモンスーンに及ぼす影響について
114. 邊田有理江(京大・防災研):台風 T 8013号(ORCHID)の発生期の流れの場の解析
115. \*田畑 明・榑原 均・石原正仁・柳沢善次・松浦和夫・青柳二郎(気研):2台のドップラーレーダーで観測された台風8514号の中心付近の構造
116. \*大西晴夫・山岬正紀(気研・台風):台風の非対称構造から生じる中心の蛇行運動について
117. 石島 英(琉大):台風場の地形によるみだれに

## 関する数値実験

118. 清水喜允(函館海洋):傾圧不安定による先駆台風の発生

## 第2会場 エクマン境界層

座長 沢井哲滋

201. 沢井哲滋(気研・予報)・石原正仁(気研・台風):霧の Nowcasting について
202. 木村竜治(東大・海洋研):対流混合層内の対流の組織化
203. 蒲生 稔・林 正康(公害資源研):混合層上部に出現する積雲
204. \*吉門 洋・近藤裕昭・北林興二(公害資源研):関東の夏の混合層の観測
205. 蒲生 稔(公害資源研):関東平野の混合層(その3)
206. 安田延壽・\*前多良一(気大):強い安定温度成層下での拡散係数
207. \*萩野谷成徳・近藤純正(東北大・理):多様地表面上の熱バルク係数と運動量バルク係数

## 局地循環

座長 沢井哲滋

208. 近藤純正・\*桑形恒男・萩野谷成徳(東北大・理):会津盆地における冷却・昇温過程の観測(2)盆地内大気-地表面の熱収支解析
209. \*佐藤 威・桑形恒男(東北大・理):斜面上昇流の構造と特性について
210. \*大畑哲夫・高原浩志・樋口敬二(名大・水圏研):山岳地の積雪域境界付近での局地循環
211. 瀬古勝基(名大・水圏研):ネパール・ヒマラヤの降水に見る積雲-谷風系の性質
212. \*有沢雄三(気象協会)・河村 武(筑波大)・植田洋匡(国立公害研):海陸風と山谷風の形成機構の類似性-2次元数値実験
213. 坪木和久・藤吉康志・若濱五郎(北大・低温研):冬期季節風下に現れる陸風の構造
214. 谷井 司(航空自衛隊):冬季、関東平野における強風について
215. \*鈴木力英・河村 武(筑波大・地球科学):中部日本における地上風系の季節性

216. 遠峰菊郎 (防大) : シアー流中の山岳波について  
 217. 遠峰菊郎 (防大) : 日高山脈周辺の山岳波について

## 第3会場 気候 (I)

座長 河村 武

301. \*福山 薫 (三重大)・山本淳之 (大阪電通大)・  
 柏谷健二 (神戸大) : 琵琶湖湖底堆積物粒度の永  
 年変化と古気候変動(5)  
 302. 水越允治 (三重大・人文) : 近世以降における近  
 畿地方中部の梅雨の長期変動傾向  
 303. 山川修治 (筑波大・地球科学) : 日本における降  
 水フェーンと無降水フェーンについて  
 304. \*古川晶雄・大畑哲夫・樋口敬二 (名大・水圏研) :  
 氷体が存在する洞穴の気象状態  
 305. \*菊地 時夫・前田 由香 (高知大・理)・上田 豊  
 (名大・水圏研) : 南極大陸内陸高原における夏  
 期の風とその日周変化について  
 306. 吉野正敏 (筑波大・地球科学) : CO<sub>2</sub> 倍増によ  
 る気候変動とわが国の食糧・水などの予想に関す  
 る研究  
 307. 近藤純正・\*上野英克・山崎幸雄 (東北大・理) :  
 海面熱収支が沿岸域の気候に与える影響  
 308. \*渡辺朝生・花輪公雄 (東北大・理) : 西太平洋  
 での冬季季節風の吹き出しと海上気象要素の経年  
 変動

309. 金谷年展 (東北大・地理) : 冬季におけるテレコ  
 ネクションの連鎖について  
 310. \*安成哲三 (筑波大・地球科学)・杉山貴子 (筑波  
 大・環境科学) : 冬型気圧配置時における日本列  
 島の降雪分布と北半球循環場におけるテレコネク  
 ション  
 311. \*山元龍三郎・岩嶋樹也・Sanga, N.K. (京大・理  
 ・気候)・星合 誠 (愛知学院大・教養) : 気候ジ  
 ャンプの検出方法  
 312. 福岡義隆 (広島大・総合科学) : 地形因子からの  
 気象要素推定に関する諸問題— (第1報) 風速の  
 場合—  
 313. 小寺邦彦 (気研・高物) : 太陽活動と気候の関係  
 の消滅・逆転について  
 314. 田中正之・\*大塚清敏 (東北大・理) : 熱収支気  
 候モデルによる帯状平均気温の季節変化シミュレ  
 ーションについて  
 315. \*畑澤宏善・岩嶋樹也・山元 龍三郎 (京大・理・  
 気候) : 時間・空間スペクトル法によるエネルギー  
 平衡気候モデル(II)  
 316. 山崎孝治・時岡達志 (気研・気候) : 地表面境界  
 条件が大気に及ぼす影響の数値実験  
 317. \*田 少奮・安成 哲三 (筑波大・地球科学) : 北  
 半球中高緯度対流圏の準2年周期振動

## 大会第1日 (5月26日) 13時30分~14時40分

## 第1会場 気象力学

座長 松田 佳久

119. 向川 均 (京大・理) : 傾圧大気における大規模  
 場の準定常状態  
 120. 金久博忠 (気大) : 周期的外力を持つ系の局所的  
 分岐について  
 121. 山地康志・金久博忠 (気大) : 定常解分岐に於け  
 る分岐点の型および分岐点と振動の関係について  
 122. 加藤輝之・松田佳久 (気大) : 回転する球面上で  
 の大気の熱源に対する線型応答  
 123. 花崎秀史 (国立公害研) : 球を過ぎる成層流のフ  
 ルード数依存性に関する数値解析  
 124. 木村竜治・三沢信彦 (東大・海洋研) : 寒気の流  
 出に関する室内実験

## 第2会場 局地循環・大気汚染 (I)

座長 蒲生 稔

218. 藤部文昭 (気研・予報) : 東京周辺における地上  
 気温・地上風分布の平日・週末差  
 219. 佐橋 謙 (岡山大・教育) : 係留気球による岡山  
 市のヒートアイランドの観測  
 220. 土屋 巖 (国立公害研) : ランドサットTMデー  
 タによる都市地表面温度の季節変化  
 221. 横山長之・山本 晋・林 正康 (公害資源研)・鈴  
 木基雄 (気象協会) : 混合層中における対流を考  
 慮した拡散モデル  
 222. 加藤真規子 (気研・物理) : 温度成層中の乱流拡  
 散実験 (風洞実験) (II)  
 223. \*板部敏和・石津美津雄・有賀 規・五十嵐 隆  
 (電波研)・浅井和弘 (東北工大) : 航空機搭載  
 DIAL によるオゾン及びエアロゾル測定

## 第3会場 気候(II)

座長 小林 守

318. 佐々木秀行(気象衛星センター):GMS から算出される雲量と地上観測による雲量の比較
319. 佐々木秀行(気象衛星センター):GMS の赤外チャンネルで観測した陸上の晴天輝度温度の特徴
320. \*森永由紀・安成哲三(筑波大・地球科学):北半球における大気-雪氷相互作用の解析的研究

321. \*朴 恵淑(筑波大・院)・河村 武(筑波大・地球科学):ヒートアイランド強度と都市の地理的環境要因(その2)
322. 井上智博(広島大・院)・福岡義隆(広島大):内陸盆地の都市気候に及ぼす霧と河川水温の影響—広島県三次盆地の場合について—
323. 中西 朗(新潟県・村松浜小学校):瓢湖の白鳥最高羽数とハバロフスクの初冬寒気団(3)

## 大会第1日(5月26日)14時40分~15時00分

## 第1会場 ポスター・セッション概要紹介

座長 松田 佳久

- P101. \*丸山健人・森 一正・本多庸浩(気研・予報)・元木敏博(気象衛星センター):「エルニーニョ緊急調査」(JENEX-87)期間中の西部赤道太平洋域における大規模大気運動
- P102. \*常岡好枝・丸山健人(気研・予報):シンガポール上空 100hPa, 70hPa, 50hPa における 1961-84年の間の気温の長期変動について
- P103. 西 憲敬(京大・理):高度場に現れる赤道域の季節内変動(2)一年々変動および OLR との関係—
- P104. 岩崎俊樹・\*中野 尚(気象庁・数値予報):台風進路予報モデルの開発Ⅲ
- P105. 山川修治(筑波大・地球科学):台風接近の特異性とその前兆現象について
- P106. 山中大学(山口大・教育):中層大気力学における新しい問題点の模索(自由討論)
- P107. 増田耕一(東大・理):FGGE Ⅲbデータの問題点
- P108. 中村 一・高杉年且(気象庁・数値予報):全球スペクトルモデルによる粒子移流拡散実験
- P109. 増田善信(元気研):広島原爆の“黒い雨”は何処まで降ったか

## 第2会場ポスター・セッション概要紹介

座長 蒲生 稔

- P201. \*木村富士男(気研)・J.L. McGregor(CSIRO):原田渦とメルボルン・エディの比較数値実験
- P202. 近藤裕昭(公害資源研):局地循環モデルによる温度予測の整合性について
- P203. \*平松 親・菊地勝弘(北大・環境研):札幌市の大気環境 Ⅱ—冬季の総観場と局地風系の関係—

- P204. 山下 晃・小西啓之(大阪教大):雲中及び雲底下での雪片の形態とその変化について
- P205. \*横山悦郎・黒田登志郎(北大・低温研):雪の結晶成長に関連する各種素過程の抵抗—結晶サイズ依存性—
- P206. \*赤枝健治・石原正仁・田畑 明・榊原 均(気研):2台のドップラーレーダによる長続きした対流性降水雲の観測
- P207. \*横山辰夫・青柳二郎・松浦 和夫・鯉沼 正一(気研・衛星):層状性降水雲の立体構造(I)1台のドップラー・レーダーによる観測
- P208. \*藤吉康志・若濱五郎(北大・低温研):北海道西海上に現われる弧状雲の発生に及ぼす地形の効果
- P209. 椎野純一(気研・台風):豪雨をもたらす多重セル構造のメソ擾乱の数値実験

## 第3会場 ポスター・セッション概要紹介

座長 小林 守

- P301. \*山元龍三郎・岩嶋樹也・Sanga, N. K.(京大・理・気候)・星合 誠(愛知学院大・教養):世界各地における気候ジャンプ(序報)
- P302. \*栗原弘一・河原幹雄・松林 繁樹・林 久美(気象庁・長期予報):エルニーニョ・南方振動(ENSO) 1986/87
- P303. 池山雅美(名大・水圏研):気象衛星 NOAA の赤外データからみた北西太平洋の雲
- P304. 斉藤達也(茨城県・日立工業高校):樹木の年輪解析による古気候復元の可能性
- P305. 村田昌彦(筑波大・地球科学):梅雨季(6,7月)の降水量分布パターンとその変動
- P306. 井上豊志郎(気研・台風):水蒸気および窓チャンネルによる絹雲の観測
- P307. 田中正之・中澤高清・深堀正志(東北大)・\*青木周司・川口貞男・山内 恭(極地研)・塩原匡貴

・牧野行雄(気研)・村山治太(横浜国大):昭  
和基地における大気中の二酸化炭素濃度の変動  
(II)

P308. \*島貫 陸・浦野 弘(東京学芸大)・名越利幸  
(八王子一中):システム科学としての気象教育

大会第1日(5月26日)15時00分~15時30分  
(ポスター・セッション)

大会第1日(5月26日)15時45分~17時45分

第1会場 中層大気

座長 高橋 正 明

125. 近藤幸治(気象庁・高層)・岩崎俊樹(気象庁・  
数値予報):全球規模のB-D循環には,南極の  
オゾン減少に対応する変動が見られるか?
126. \*大野裕一・廣田 勇(京大・理):MUレーダ  
ー観測によって得られた強い鉛直風変動の解析
127. \*牛丸真司・田中 浩・吉沢宣之(名大・水圏研):  
MUレーダ観測資料のスペクトル解析 下部成層  
圏に卓越する慣性重力波および慣性振動の特徴
128. \*村岡良和(兵庫医大)・川平浩二(富山工専)・  
杉山卓也(京大・理):中間圏の慣性重力波の特  
性—MUレーダーによる観測
129. \*柴田 隆・一森誠也・青井辰史・福田光伸・成  
清徹・前田三男(九大・工):ライダーによる中  
層大気重力波の観測
130. \*呉 登華・宮原三郎(九大・理):モデル大気お  
よびFGGEにおける成層圏 Traveling Wave
131. \*田中 浩・吉沢宣之(名大・水圏研):成層圏  
QBOと対流圏QBOの同期
132. 高橋正明(九大・理):対流圏まで含めたQBO  
のモデルについて

第2会場 局地循環・大気汚染(II)

座長 渡 辺 明

224. 大和田道雄(愛知教育大・地理)・\*石川義二(愛  
知教育大・院):伊勢湾・三河湾岸地域における  
風の特性について(2)
225. \*高橋忠司・中島俊夫(埼玉大・教育):関東山地  
の夏期における風の特性
226. \*栗田秀實(長野県衛公研)・植田洋匡(国立公害  
研):海風時の重力流ヘッドの進行に伴う汚染気  
塊の輸送
227. \*栗田秀實(長野県衛公研)・植田洋匡・光本茂記  
(国立公害研):弱い傾度風下で大気汚染物質を長  
距離輸送する大規模な局地風系の形成過程

228. 渡辺 明(福島大・教育):峠越えと内陸盆地底  
での高濃度O<sub>x</sub>出現
229. 鶴田治雄(横浜市公害研):沿岸域から内陸域へ  
の大気汚染物質の輸送および変質過程(その4)  
——光化学汚染気塊の輸送過程のモデル——
230. \*松本 淳(東大・地理)・宇田川 満・伊藤政志  
・早福正孝・朝来野国彦(東京都環境科学研):  
南関東における夏季の海陸風系と光化学大気汚染  
の予測
231. 水野建樹(公害資源研)・松川宗夫(筑波大)・吉  
門 洋・近藤裕昭(公害資源研):関東地方にお  
ける高濃度粉じん出現日の気象解析
232. 林 正康 他(公害資源研):エアロゾルの空間分  
布その3
233. 増原孝明(都立大・地理):東京都における自動  
車排ガス大気汚染と都市効果

第3会場 気象測器・応用気象

座長 青 柳 二 郎

324. \*河野幸男・浜 守一(小笠原計器製作所):水  
晶温度計の時定数について
325. 丹治辰男(室蘭工大・工):新しい雨量計の開発発
326. \*青柳二郎・松浦和夫・横山辰夫(気研・衛星):  
ドップラーレーダデータによる実風速分布の再現  
法(2)
327. 栗田 進(気研・応用):デュアルドップラーレ  
ーダデータの極座標系による独立処理
328. 青木忠生(気研・高物):地表遠隔測定精度改善  
のためのフィジビリティスタディ
329. \*竹内延夫(国立公害研)・佐藤 勲・馬場浩司・  
桜井捷海(東大・教養):半導体レーザー携帯型  
ライダーによる道路・トンネル内の排ガス観測と  
そのFFT解析
330. 水野 量(仙台管区):1986年8月4日,5日宮  
城県における大雨被害の分析
331. \*真鍋大覚・佐藤 洋子(九大・工)・志賀 正信:

天候の5日間周期と900mb高度の乱気流

332. \*真鍋大覚・佐藤洋子(九大・工)・志賀正信:紀州熊野の参尊月光

333. 榊原保志(目黒二中):中学校における気象領域の教材化

## 大会第2日(5月27日)9時00分~12時00分

### 第1会場 中小規模現象

座長 榊原 均

133. \*榊原 均・田畑 明(気研):停滞前線付近に発生した長寿命の豪雨の構造
134. \*吉住禎夫・永田 雅(気研・予報):対流圏上層の低気圧の南側における積雲対流の発達
135. \*岡村博文・田畑 明(気研・台風):昭和61年8月の大雨—小貝川上流域に集中した雨の特徴—
136. 武田喬男・\*中井専人(名大・水圏研):中規模積乱雲群による降雨の事例解析
137. 武田喬男・\*東 善広(名大・水圏研):中規模積乱雲群からみた梅雨前線帯の雲の活動の変化
138. \*岩崎博之・武田喬男(名大・水圏研):東シナ海上を移動するクラウド・クラスター形成時の一般場の特徴
139. \*小林文明・菊地勝弘(北大・理):スコールラインに伴って発生したマイクロバーストについて
140. 二宮洗三(気象庁・数値予報):中間規模低気圧のrainbandとsymmetric instability
141. 斎藤 定・田中 浩(名大・水圏研):条件付対称傾圧不安定の数値実験(I)—温帯低気圧,梅雨前線に伴うレインバンド生成に果たす基本的役割—
142. 斎藤 定・田中 浩(名大・水圏研):条件付対称傾圧不安定の数値実験(II)—下層への水蒸気供給の効果について—
143. 秋山孝子(気研・予報):1982年7月の極東域における雲量のスペクトル解析 II ITCZと梅雨前線
144. 住 明正(東大・理):MUレーダーを用いた中小規模現象の観測—86年7月の場合

### 第2会場 雲物理・積雲対流(I)

座長 榊原 均

234. \*横山悦朗・黒田登志雄(北大・低温研):結晶成長のパターン形成 I 境界要素法を用いたプリズム面の発達過程のシミュレーション
235. 山崎利夫(大宮中央高校)・清 忠師・榊原武彦(東理大・理工):高過飽和度で成長する樹枝状氷晶の枝分かれ

236. \*清 忠師・河村伸治・榊原武彦(東理大・理工):融点近くで成長する氷晶の成長機構 II
237. \*高橋庸哉・遠藤辰雄・若濱五郎(北大・低温研)・福田矩彦(ユタ大):雪結晶の成長に及ぼす気圧の効果
238. \*松尾敬世(気研・物理)・福田矩彦(ユタ大・気象):水飽和以下で成長する氷晶に関する垂直風洞実験
239. \*佐藤 昇(大阪府科学教育センター)・菊地勝弘(北大・理):カモメ型結晶について
240. \*高橋庸哉・遠藤辰雄・若濱五郎(北大・低温研):雪結晶の昇華蒸発過程
241. 梶川正弘(秋田大・教育):初期雪片の構成様式について(II)
242. \*村上正隆・中山 嵩・植村 八郎・松尾敬世(気研・物理):雲及び放射の総合観測手法の研究 I. 雲粒子ゾンデの開発
243. 田中豊頭・岡田 菊夫・市村 市太郎(気研)・市川才四郎・徳田彰男(株式会社三啓):雲及び放射の総合観測手法の研究 II. 航空機用雲粒子ビデオ顕微鏡の開発
244. 伊藤朋之(気象庁)・金沢五寿雄・池上三和子(気研):雲及び放射の総合観測手法の研究 III. 航空機による雲内エアロゾル観測手法について(第2報)
245. \*浅野正二・塩原匡貴・真野 裕三・忠鉢 繁(気研):雲及び放射の総合観測手法の研究 IV. 航空機による雲の分光日射観測

### 第3会場 放射

座長 内山 明博

334. 清水正修(電気通信大):衛星 NOAAのTOVSによる南極域の水蒸気量の算出
335. 田中正之・中島映至・\*大曲芳枝(東北大・理):太陽直達光強度の分光観測に基づく大気中の水蒸気量及びエアロゾル量の研究
336. \*水野芳成・青木輝夫(気研・高物):全天走査型分光放射計の開発とそれによる晴天天空光輝度分布の観測
337. \*青木忠生・八尾 孝・水野芳成・青木輝夫(気

- 研・高物) : 大気の emission 観測による  $10\mu\text{m}$  水蒸気連続吸収帯吸収係数の推定
338. \*杉本伸夫・清水 浩・笹野泰弘・林田佐智子(国立公害研) : 地上静止衛星間アグマール変換レーザー長光路吸収分光計を用いた対流圏・成層圏の微量成分監視システムの提案
339. \*秋吉英治・藤原玄夫・高橋 正明(九大・理) : El' Chichonエアロゾルによる太陽光の散乱・吸収と大気加熱効果
340. \*浅野正二(気研)・内山明博(気象衛星センタ
- 一) : 水蒸気による太陽放射加熱率の評価
341. \*増田一彦・高島 勉(気研・衛星) : 大気-海洋系における雲・大気効果 — 氷晶による散乱—
342. \*柴田清孝・青木忠生(気研) : 長波放射のパラメタリゼーション(I)
343. 中島映至(東北大・理) : Truncation 法を用いた放射計算法に関する考察
344. 青木輝夫(気研・高物) : LOWTRAN 6 と組み合わせた Doubling-Adding Model

### 大会第3日(5月28日) 9時00分~12時30分

#### 第1会場 総観規模現象・数値計算法

座長 吉住 禎 夫

145. \*加藤内蔵進(名大・水圏研)・仮屋久則・福永秀一(鹿児島地台) : 九州付近の梅雨前線の活動と低緯度の循環系について
146. 菅野洋光(都立大・地理) : 梅雨前線北方の気団について — 1985年梅雨の事例解析—
147. 廣田 勇・廣岡俊彦・\*大野 裕一(京大・理) : 冬期に潮岬で見られたジェットの10日周期変動について
148. 豊田威信(札幌管区)・\*住 明正(東大・理) : チベット高原のまわりの寒気の流れについての解析
149. 佐藤公喜(愛知県公害調査センター, 名大・水圏研) : 上層大気空気塊の下層への輸送過程の解析(2)
150. 劉 発華(筑波大・地球科学) : 冬の極東域における逆転層の特徴について
151. 柏原辰吉(気象協会・北海道本部) : 北太平洋を中心とした最近の冬季循環
152. 白木正規(気研) : JMA 客観解析値による運動エネルギーの解析(II)
153. 斉藤和雄・馬場 厚(気象庁・数値予報) : GMS 観測に基づく相対湿度と雲量の統計的関係
154. 馬場 厚(気象庁・数値予報) : GMS の雲分布デジタル化データを利用した上層水蒸気量推定システムの改良
155. \*麻生 正・大沢 和裕・竹内 義明(気象衛星センター) : 衛星雲画像による雲型判別の精度向上について II — 雲特徴パラメーターの緯度変化—
156. 三浦信男(気象庁・数値予報) : 3次元最適内そ

う法による微格子解析

157. 中山 嵩(気研・物理) : Non-Hydrostatic Model の保存スキームについて
158. \*高野 功・中村 一(気象庁・数値予報) : 局地スペクトルモデルのノーマルモードイニシャリゼーション
159. 猪川 元興(気研・予報) : 巽の狭領域スペクトル法に対するいくつかのコメント

#### 第2会場 雲物理・積雲対流(II)

座長 椎 野 純 一

246. \*遊馬芳雄・菊地勝弘・谷口 恭(北大・理)・藤井智史(電波研) : 降雪時の地表付近の大気電位傾度・降水電荷の鉛直構造(II)
247. \*藤井雅晴・菊地勝弘・城岡竜一(北大・理) : 鉛直上向きステレオ写真観測による雲底構造の解析
248. \*高橋 勲(九大・理)・坪田幸政(慶応高校)・三浦和彦(東理大) : ハワイにおける温かい雨の降雨機構
249. 高谷美正(気研・台風) : 対流雲の微細構造について
250. 三隅良平・和田美鈴(気大) : 積雲対流に及ぼす水相過程の影響
251. 椎野純一(気研・台風) : 豪雨をもたらす対流雲群の組織化に及ぼす風の鉛直シアの影響(数値実験)
252. \*劉 国勝・武田喬男(名大・水圏研) : 層状雲の構造と降水形成過程 — マイクロ波放射計とレーダーによる観測—
253. 小西啓之(大阪教育大)・遠藤辰雄(北大・低溫研) : 降雪の地上観測と地上観測とレーダー観測

## の比較(その2)

254. \*遊馬芳雄・菊地勝弘(北大・理):レーダー・エコーの進入方位別にみた札幌市内域の降雪特性とエコーの出現頻度特性
255. \*小林文明・菊地勝弘・上田 博・谷口 恭・加藤聖治・城岡竜一・藤井雅晴(北大・理):レーダーから見た北海道西岸羽幌沖の小低気圧の形成過程
256. \*岩波 越・菊地勝弘・上田 博・谷口 恭(北大・理):北海道オロフレ山系の降雨機構—雲の二層構造による降雨の増幅—
257. \*真木雅之・八木 鶴平(国立防災センター):降水量分布に及ぼす筑波山系の影響
258. 遠藤辰雄・立花義裕・若濱五郎(北大・低温研):北海道西岸帯状収束雲の上陸地点について
259. 遠藤辰雄(北大・低温研)・高橋庸哉(札幌市・青少年科学館):ランドサットの雲画像とレーダーエコーの対比
260. 真野裕三(気研・高物):GMS から見た雲のサイズ分布

## 第3会場 大気化学・大気電気

座長 忠 鉢 繁

345. 城尾泰彦・伏見克彦・\*伊藤朋之(気象庁)・野口利世(気象ロケット):大気バックグランド汚染監視用二酸化炭素濃度観測システムの開発
346. \*中澤高清・宮下孝治・青木周司・田中正之(東北大・理):対流圏上部及び成層圏下部における二酸化炭素の広域変動特性
347. \*井上久幸・杉村行勇(気研):大気/海洋間のCO<sub>2</sub>交換に伴う表面海水中のCO<sub>2</sub>分圧の変化について
348. \*旭 満・牧野行雄・広田道夫・佐々木徹(気研・

高物):北日本のオゾン高濃度域の高層解析

349. \*鶴田治雄(横浜市公害研)・溝口次夫(国立公害研)・新谷光三(気象協会)・小川利紘(東大・理):日本における対流圏オゾンの挙動(第1報)一季節および緯度変化—
350. 川平浩二(富山高専)・廣岡俊彦(気象庁):南半球成層圏における気温とオゾンの年々変動
351. \*牧野行雄・村松久史(気象研)・田中正之(東北大)・小川利紘(東大)・川口貞男・山内 恭(極地研):赤外分光法によるオゾン全量及びN<sub>2</sub>O全量の観測
352. \*忠鉢 繁(気研)・梶原良一(高層気象台):オゾン垂直分布の観測から導かれた南極成層圏大気の鉛直運動
353. \*廣田道夫・村松久史・牧野行雄・佐々木 徹・旭満(気研):筑波における地表大気中のCH<sub>4</sub>濃度(Ⅲ)
354. \*内海通弘(九大・理)・藤原玄夫(九大・理)・広野求和(九産大・教養):内部波動の中間圏アルカリ原子層への影響(モデル)
355. \*横田喜一郎・鈴木利孝・角皆静男(北大・水産):冬期日本海上の奥尻島における大気中96-210濃度の日変動
356. 近藤 豊・高木増美・森田恭弘・岩田 晃(名大・空電研):ニュージーランドにおける大気微量成分の観測
357. 鈴川三男・遠峰菊郎・阿部成雄・\*道本光一郎(防大)地表電場から見た航空機の被雷
358. 鈴川三男(防大):小松周辺の冬季雷雲下の電場分布について
359. 高橋 劭(九大・理):雷雲モデルでの雷放電位置の決定

## 大会第3日 (5月28日) 13時30分~17時30分

## 第1会場 エアロゾル

座長 林 田 佐知子

160. 岡田菊夫・田中豊顕・成瀬弘・吉川友章(気研・応用):nucleation scavenging の効率の測定
161. 成瀬 弘・岡田菊夫・田中豊顕(気研・応用):放射霧の消散時におけるエアロゾル, 粒子の濃度変化と組成について
162. \*石岡 太・李 東仁(北大・環境研)・菊地勝弘・谷口 恭(北大・理):係留気球による大気境

界層内のエアロゾルの測定

163. \*塩原匡貴(気研)・田中正之・中島映至・早坂忠裕(東北大・理):仙台におけるエアロゾル粒径分布の長期モニタリング
164. \*伍 培明・小野 晃(名大・水圏研):硝酸(塩)エアロゾル粒子の存在状態
165. \*李 東仁(北大・環境)・谷口 恭・菊地勝弘(北大・理):風向別に見た札幌市およびその上空におけるエアロゾルの化学成分の特徴

166. \*谷口 恭・菊地勝弘(北大・理)・辻村 啓(北大・環境)：北極域の雪結晶の中心核とエアロゾルについて
167. 小野 晃・石坂 隆・大和政彦(名大・水圏研)・ワシントン大学・雲・エアロゾルグループ：北極圏大気エアロゾルの航空機観測
168. 桜井兼市(北大教大・旭川)・梶川正弘(秋田大)・菊地勝弘(北大・理)：カナダ北部における低温型雪結晶及びエアロゾルの観測(Ⅱ)—エアロゾルの観測及びその SEM-EDX 解析—
169. \*大和政彦・古賀聖治・小野 晃(名大・水圏研)北部北太平洋及びベーリング海におけるサルフェイト粒子、ナイトレート粒子の空間分布
170. \*荒生公雄・大坪真澄(長崎大・教育)：サンフオートメーターによる黄砂の観測(Ⅱ)
171. \*甲斐憲次・岡田芳隆・内野 修・田端 功(気研・衛星)：黄砂のライダー観測(1)
172. \*笹野泰弘・林田佐智子・中根英昭(国立公害研)：レーザーレーダーで観測された黄砂エアロゾル層の変化
173. \*早坂忠裕・中島映至・田中正之(東北大・理)：対流圏中層におけるエアロゾルの粒径分布について
174. \*荒木真一・岩坂泰信(名大・水圏研)：成層圏エアロゾル層の時間変化—ライダー観測とゾンデ観測の解析—
175. 林田佐智子・飯倉美和・笹野泰弘(国立公害研)：大型レーザーレーダーによる成層圏エアロゾル層の観測(Ⅱ)季節変動に着目して
176. M.P. McCormick・L.R. McMaster・W.P. Chu(NASA)・内野 修・岡田芳隆・田端 功・甲斐憲次(気研)：SAGE II と MR I ライダーによる成層圏エアロゾル層の共同観測(Ⅱ)—光学的厚さ—
177. 岩坂泰信・\*今須良一(名大・水圏研)：二波長レーザー・レーダー観測によるエアロゾル粒径分布の推定
178. 岩坂泰信(名大・水圏研)・森田恭弘(名大・空電研)：南極成層圏エアロゾルの冬期増大現象—イオン・ニュークリエーションの可能性
179. \*岩坂泰信(名大・水圏研)・小野高幸(極地研)・野村彰夫(信州大・工)ライダーから見た「南極成層圏エアロゾルに対するエルチチオン火山の

影響」

180. \*田端 功・内野 修・甲斐憲次・岡田芳隆(気研・衛星)：オゾン反転観測におけるエル・チチオン火山噴火の影響

## 第2会場 接地境界層

座長 加藤 真規子

261. 森 征洋(香川大・教育)：風向・風速の平均値と標準偏差の評価方法について(Ⅳ)
262. 枝川尚資(京大・防災研)：琵琶湖の蒸発量の年変化について
263. \*大滝英治・塚本 修(岡大・教養)・岩谷祥美(日大・生産工)：大気境界層での二酸化炭素の乱流輸送
264. 米谷俊彦(岡山大・農生研)：植物群落上の乱流特性について(23)
265. 近藤純正・\*渡辺 力・佐藤 威(東北大・理)：水稲群落上における乱流輸送係数
266. 林 陽生(農環研・気象特性研)：植物群落の揺れの風洞実験
267. 近藤純正・\*山崎 剛(東北大・理)：森林の熱収支モデル(2層モデル)について
268. 中川清隆(上越教育大・自然)：一高度の気象要素から蒸発散量を推定する新しい組合法公式
269. 塚本 修・大滝英治(岡山大・教養)・米谷俊彦(岡山大・農研)日射量の変動に対する接地境界層の応答
270. \*堀 晃浩・星野毅史・伊藤昭三(阪府大・工)：X型熱線風速計の方向特性の補正と乱流測定
271. 内藤玄一(国立防災センター)：海洋上における強風時の乱流特性(Ⅳ)
272. 石田廣史(神戸商船大)：スペクトル・ギャップの中規模周波数領域における海洋上の表面風速及び気温の変動
273. 藤谷徳之助・花房龍男(気研)：海上風の構造(3)
274. \*千葉 修・石川明弘・広田智佳朗・菊地時夫(高知大・理)：海風前線の乱流特性(接地気層での観測)
275. 水野建樹(公害資源研)：地上付近で観測された波動について
276. \*中川清隆・小沢詳吾(上越教育大・自然)：新潟県上越市高田市街地および周辺地域における下向長波放射流束の移動観測の試み

277. \*鷗野伊津志・植田洋匡・若松伸司(国立公害研):  
 $\kappa$ - $\epsilon$  乱流 Closure Model による大気境界層の内  
 部構造の検討 —中立及び安定成層—
278. 松岡春樹: エントロピー釣合式からみた  $\bar{T}^{1/2}/2$  の  
 収支式と物理的意味 (前回の改訂と補足)
279. 松岡春樹: 蒸発ある場合の接地層のエントロピー  
 釣合と関連問題
- 第3会場 大気大循環**
- 座長 谷 貝 勇
- 360: 大和田道雄(愛教大・地理)・中村達博(玉野総  
 合コンサルタンツ): 本邦付近におけるジェット  
 気流の季節変化
361. \*中三川 浩・加藤久雄(気大): 大気環流の型  
 と天倒についての統計的・総観的研究
362. 佐藤康雄(気研・予報): 帯状平均東西風の局所  
 時間変化の日々の変動に見られる順圧的な構造と  
 南北伝播
363. \*廣岡俊彦・九鬼隆成・廣田 勇(京大・理): 中  
 間規模波動の南北両半球における比較
364. 廣岡俊彦(京大・理): 高次自由振動モード・ロ  
 スビー波の出現について
365. \*尾瀬智昭・時岡達志(気研・気候): 低緯度の  
 降水特性とハドレー循環
366. 時岡達志・山崎孝治・\*尾瀬智昭(気研・気候):  
 低緯度の降水特性と季節内変動
367. \*岩崎友彦・廣田 勇(京大・理): 北半球冬季  
 対流圏中・高緯度における ENSO の影響
368. \*岩嶋樹也・山元龍三郎(京大・理・気候): 波  
 動間非線形相互作用を考慮した低次順圧時間・空  
 間スペクトルモデルの周期外力応答
369. 谷貝 勇(気研・気候): FGGE3B (SOPI)デー  
 タと MRI・GCM-I シミュレーション結果から  
 検出された太陽と同期しない大気潮汐のモードに  
 ついて
370. 千葉 長(気研): 長期予報実験—1984年夏の事  
 例(梅雨前線の再現)
371. \*鬼頭昭雄・山崎孝治・時岡達志(気研): アフ  
 リカ熱帯雨林伐採が大気に及ぼす影響 —土壌水  
 分の変化に対する応答の数値実験—
372. 藤田敏夫(埼玉大): El Chichon 火山大爆発後  
 の亜熱帯上空における帯状風の分布について
373. 青山道夫(気研・地球化学): チェルノブイリ原  
 発事故により放出された放射性物質の北半球への  
 拡がりについて
374. 山崎孝治(気研・気候): 南半球春季の物質輸送  
 について—オゾンホールに関連して—
375. 阿部 豊(東大・理): 原始地球に「海面」は存  
 在したか —原始大気のコ<sub>2</sub>量が多くても海は  
 できるか

1987年春季気象学会講演予稿集の無断転載・翻訳を禁じます。

### ==== 東京駅—筑波センタービル間直通バス運行のお知らせ ====

4月1日より、東京駅八重洲南口—筑波センタービル  
 間の直通バスの運行が開始されました。東京駅発は6:  
 00から21:00まで1時間毎(毎時00分発)、筑波センタ  
 ー発は6:00, 6:40, 7:30~20:30(毎時30分発)、所

要時間は60分~90分です。運賃は片道1,200円。なお、  
 筑波センター—筑波大学間は、関東鉄道バス(所要時間は  
 約6分)が運行されています。問合せ先: 0298-52-5666  
 (関東鉄道バス), 03-625-4267 (JR 東日本バス)。